

新型コロナウイルス感染症の発生状況（富山県、第52週）

富山県厚生部健康対策室、衛生研究所

方法等

対象期間

令和4年 第52週分 12月27日～1月2日公表分

症例定義

富山県公表資料「新型コロナウイルス感染症の発生状況について」において
上記期間に富山県内で報告された症例
→ 6,727例

情報源

富山県公表資料「新型コロナウイルス感染症の発生状況について」より、次の情報をまとめた

- 流行曲線、実効再生産数（Rt）、年代分布、年代別報告数の推移 等

図1. COVID-19流行曲線（富山県）

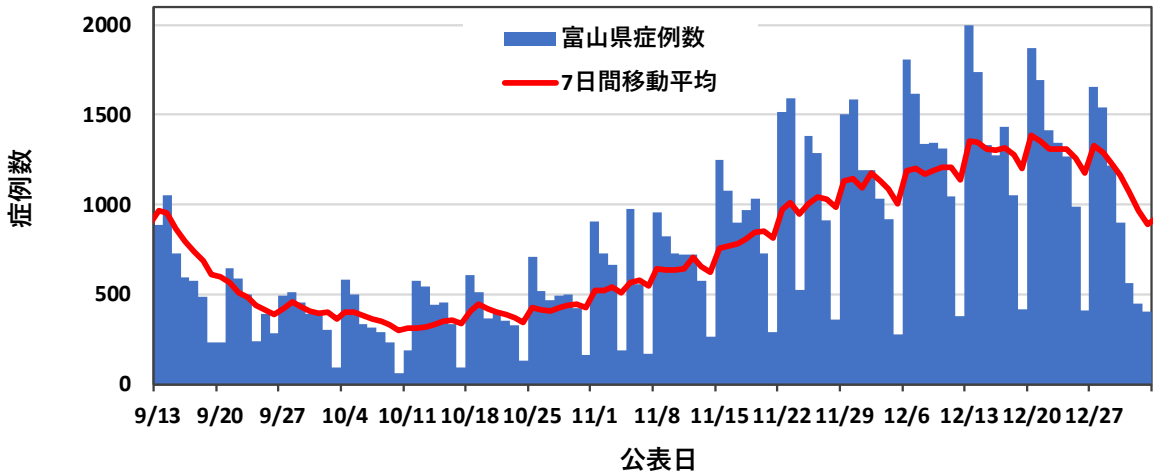
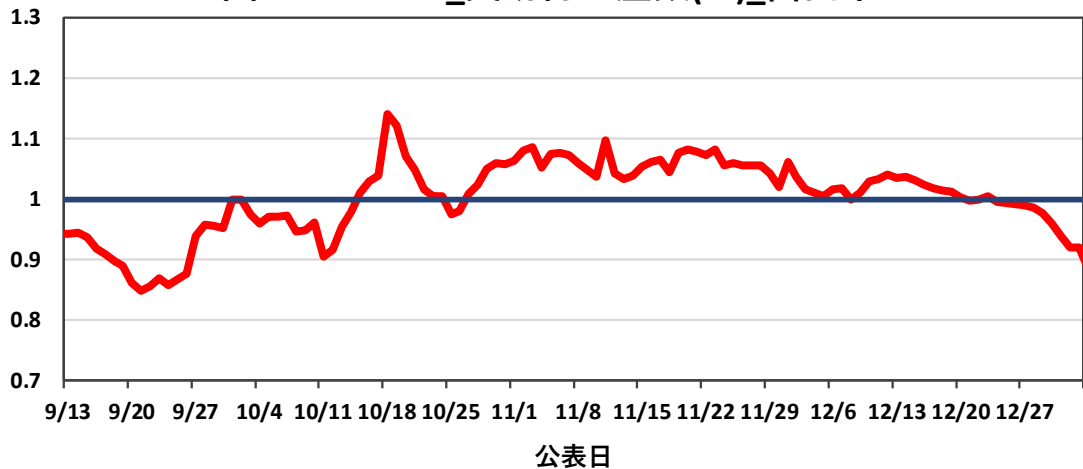


図2. COVID-19_実効再生産数(Rt)_富山県



$Rt = (\text{直近7日間の新規感染者数} / \text{その前7日間の新規感染者数}) \wedge (\text{平均世代時間} / \text{報告間隔})$
平均世代時間 = 2日、報告間隔 = 7日 で算出。

図3. COVID-19年代分布（富山県、52週）

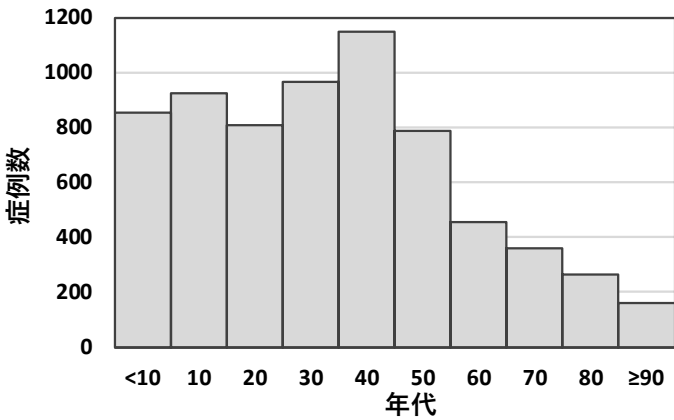


図4. COVID-19年代別割合（富山県、52週）

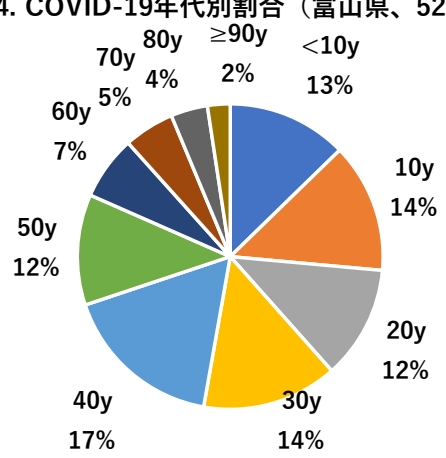


図5. 年代別報告数の推移（富山県）

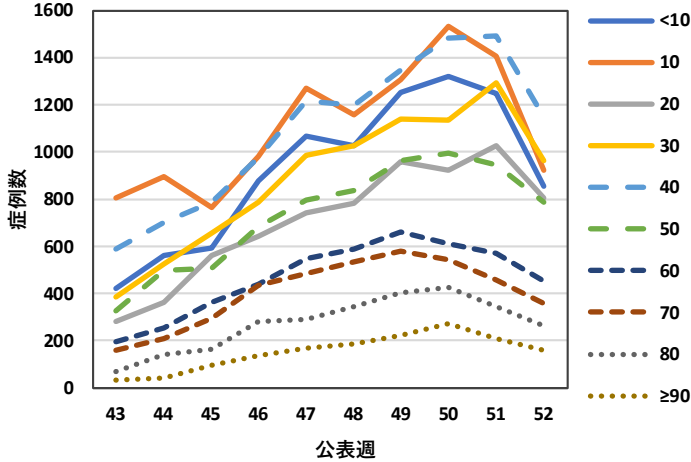
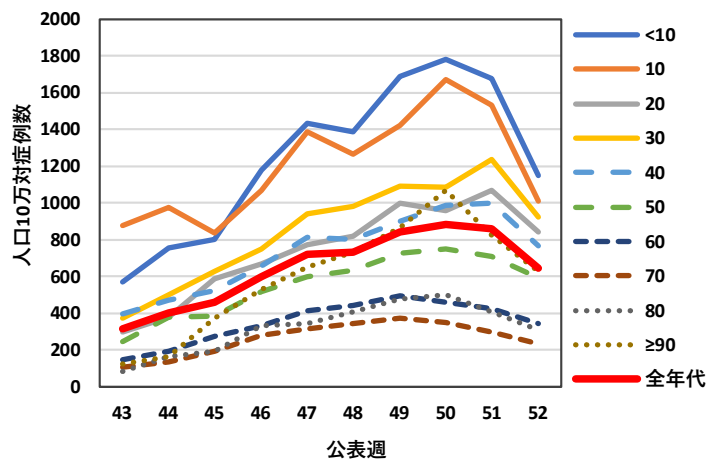


図6. 年代別報告数の推移（富山県、対人口10万）



1月2日時点での所見と評価

- 第52週の新規報告数は、6,727例。先週（8,991例）から減少した。（図1）
- 症例数が減少した要因として、真に症例数が減少した他、年末年始の医療機関の休業による医療体制、県民の受診行動の変化等が考えられ、データの解釈には注意が必要。
昨年には成人式後に症例数が急増したことから、今後の感染拡大に注意が必要である。
- 実効再生産数（図2）は、今週減少し、1/2時点で0.92。
- 第52週に報告された症例の年代分布（図3：ヒストグラム、図4：円グラフ）を示す。40歳代が最も多く17%を占めた。次いで30歳代、10歳代、10歳未満の順に症例数が多い状況。60歳以上の割合は18%を占め、先週（17%）と同程度。
- 年代別報告数の推移を図5、年代別人口当たり報告数の推移を図6に示す。全ての年代で症例数が減少した。